

陸前高田市仮設住宅の住まい方に関する調査と報告

八代研究室
00912110 本田千四郎

1. はじめに

本研究は、2011年3月に発生した東日本大震災における、仮設住宅入居者の生活環境を改善するためのボランティア活動をきっかけに、仮設住宅の住まい方調査を行った。

2. ボランティア活動概要

2-1. ボランティア活動地概要

2012年8月にボランティア活動を行った岩手県陸前高田市矢作町仮設団地には、津波で住居が全壊及び半壊した高田町、気仙町の人々が中心に入居され(図1)、仮設住宅は団地状に34戸の住居が形成され、調査時点で33世帯が入居し、1世帯は共有スペースとなっていた(図2)。

2-2. ボランティア活動報告

入居者の多くが室内に人を招き入れることのできない環境にあり、近隣住民との交流が少ない現状を改善するために、仮設住宅の風除室上部への庇設置作業及び、住居間への屋外交流スペースの制作を行った(写真)。

造作物は、仮設住宅の外壁等に釘やビスの打ち込みができないため、当初の図面寸法を変更し設置作業を行い、庇と屋外交流スペースの実測調査図面及び見積もりを作成した。

3. 調査概要

3-1. 住まい方調査(図3、表1、表2-左)

調査対象となる陸前高田市矢作町仮設団地は、図3-初期状態のように、5,460×5,460の正方形田の字プランで、1-玄関・キッチン、2-居室、3-置き畳が可能な居室、4-浴室・トイレで構成される。これは、プレハブ協会が提案する最低限仕様の「プレハブタイプ2DK水洗い式」に準ずるものである。

調査方法は、家具の配置や寸法、材質を記録し、他の入居者との比較を行う。入居者に対して仮設住宅での生活上で発生する問題や、仮設住宅に入居する際に抱えていた不安要素を聴取した。

33世帯中11世帯を調査した結果、収納スペースが少ないため、図3の6世帯のように手作り家具を使用し、各所で簡易かつ、解体を安易に行える家具を制作していた。中でも、図3-Kは手作り家具が多く細部まで手が込んでいた。また、11世帯中7世帯が浴槽を荷物保管場所とし、浴室を利用できない現状が判明した。これは、スペースの有効活用が難しい仕様であることを示す。また、手作り家具はものづくり経験のある入居者世帯に見られ、ものづくり経験のない入居者世帯は、生活環境の充実化が困難であることを指摘された。

3-2. ヒアリング調査(表2-右)

ボランティア活動及び実態調査を行った団地にある、既存の仮設住宅を施工した方と仮設住宅の問題についてヒアリングした結果、資材や人材を大量かつ迅速に供給できない現状や、仮設住宅使用後の撤去・再利用のマニュアルの必要性、仮設住宅の最低限仕様の統一など、復興に向けた総合的な部分を視野で指摘された。

4. おわりに

調査を通して「住む側」に関する問題は、仮設住宅での住まい方をより快適にするための意見が多く、特にスペースの有効活用が改善された環境を求めている。

両者の指摘した問題のベクトルが異なって見えるが、「住む側」が指摘する問題を改善するためには、「作る側」が指摘した問題を解消しなければならないことが判明した。

【謝辞】

本研究においてご協力、ご指導いただいたものづくり大学同窓会の方々、実態調査にご協力してくださった町民の方々、ヒアリングにご協力してくださった大和ハウス工業株式会社営業本部建築事業推進部専任部長、岩見正文様にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

【参考文献】

小林徹、岩見正文「備蓄・供給から解体・再利用まで」
建築雑誌 vol. 127 (2012年07号) pp24-25. 日本建築学会

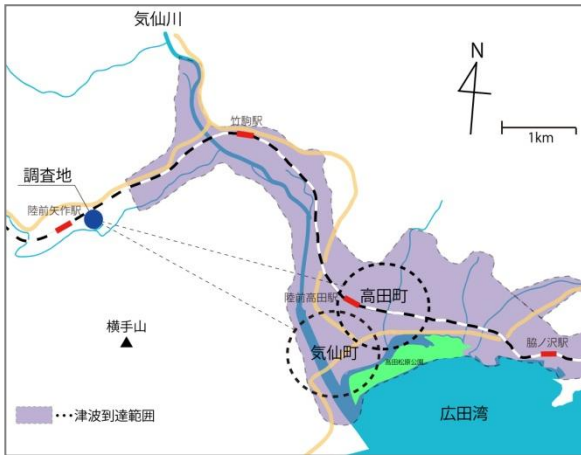


図1 陸前高田市津波被害範囲図

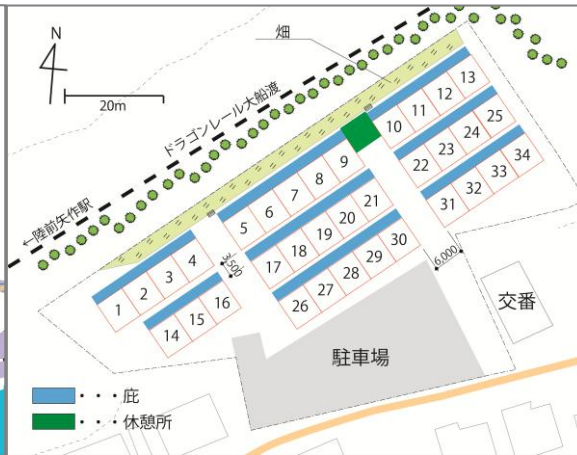


図2 陸前高田市矢作町仮設団地敷地敷地図



写真 上：庇
下：屋外交流スペース

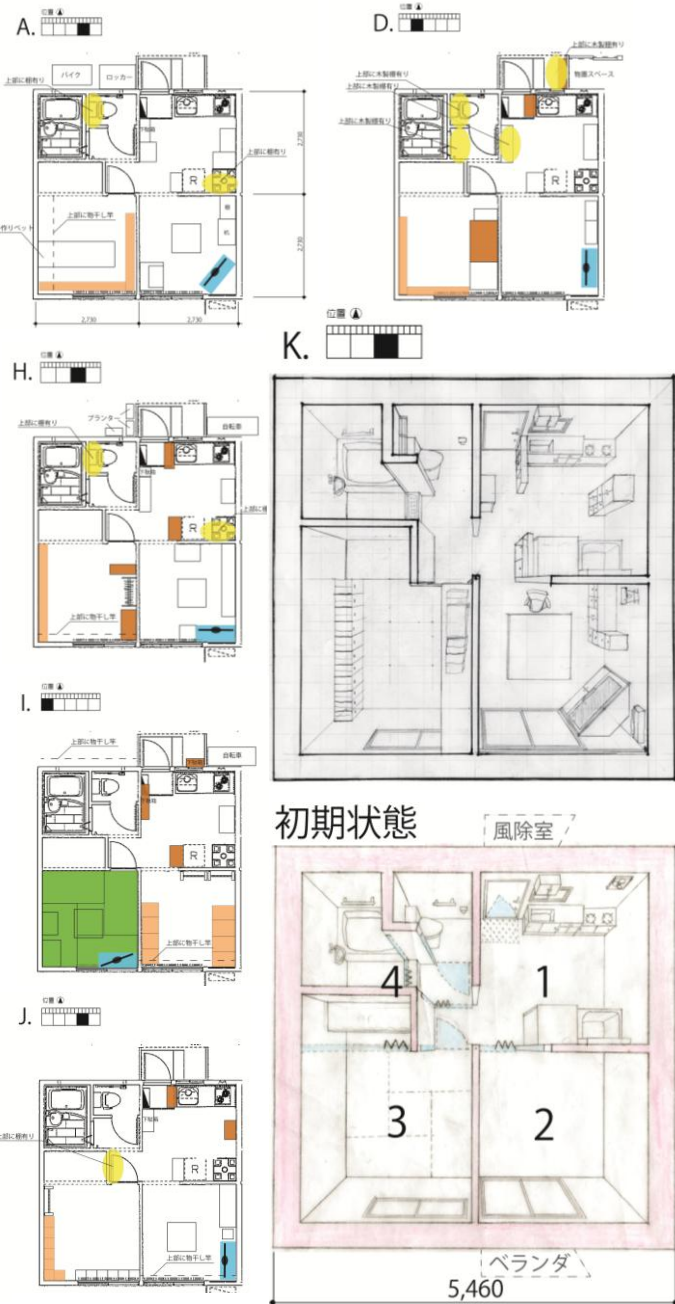


図3 住まい方調査の事例

表1 調査結果一覧表

家族構成	風除室	靴箱 内 外	ベランダ	物干し 内 外	浴槽	手作り 家具	畳	付鴨居	寝室			テレビ			神棚・仏壇			物干し			上部の棚		
									1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
A	○	内	○	内	物入	○	×	○	2	2	2	3	1.4										
B	○	内・外	○	内・外	使用	○	△	○	2.3	2.3	3	3	1.4										
C	○	外	○	内	使用	○	×	○	3	2	2	2	×										
D	○	外	○	外	物入	○	×	○	3	2	2	2	1.4										
E	○	内	○	内	使用	×	×	○	3	2.3	×	3	1.4										
F	○	内	○	外	物入	×	○	○	3	2	×	2	×										
G	○	外	○	外	使用	×	×	○	3	2	2	2	1.4										
H	○	内	○	内	物入	○	×	○	3	2	2	3	1.4										
I	○	内・外	○	内・外	物入	×	○	○	2.3	3	2	2	×										
J	○	内	○	内・外	物入	○	×	○	3	2	3	2	×										
K	○	外	○	内・外	物入	○	×	○	2.3	2	2.3	2	1.4										
計	40歳未満 → 6 50歳以上 → 19	11	内 7 外 6	11	内 8 外 7	使用 4 物入 7	7	2	11	室2 4 室3 10	室2 10 室3 2	室2 7 室3 3	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4	室2 7 室3 4		

表2 指摘された問題一覧表

住む側の意見		作る側の意見	
入居前	入居後	施工前	施工後
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害者のサポート拠点が少ない(3人) 交通の便が悪く敬遠される場所が多い(1人) 光熱費や食費など家賃以外が自己負担(1人) 入居期限があるため、「みなし仮設住宅」へ移行(1人) 入居する際は、抽選を行うため早くに入居できない(1人) 	<ul style="list-style-type: none"> 収納スペースが圧倒的に少ない(10人) 高齢者が多く利用するにも関わらず、バリアフリーなどの設備が不十分(7人) 家具の制作をしたくても高齢者や経験がないため困難(6人) 節電でエアコンを控えるため蒸し風呂状態(3人) コミュニティスペースの場所が少ないため、外出が減り孤独死が増加(2人) 	<ul style="list-style-type: none"> 大量の仮設住宅を施工したくても、備蓄がないため迅速に対応出来ない 政府が内示した数よりも圧倒的に入居者が少ない 仮設住宅の最低限仕様は明確になっていないため、身勝手な建設やクレームが発生する 職人や資材調達が困難で工期の延期、追加工事の発生が起きる 	<ul style="list-style-type: none"> 造作物が多く、入居者自身が解体・撤去をしないため撤去費用が施工者の負担になる 仮設住宅の再利用システムが不透明 不具合ばかりがメディアに取り上げられ、入居者の方は「消費者意識」を持つ傾向がある 解体にかかる人件費より、産業廃棄物の処理費が高い。(造作物等)
※上から頻度が多い意見を記載			